Chapter 11

●論点に至るまでの流れ●

本文から読み取れる、各国（4か国）のグローバルシティズンシップ教育

Ex. ・カナダ…世界の市民というよりも、カナダ人の育成に重きが置かれている。

 　　　　　　　（背景）「移民国家として多くの集団を抱えている。（中略）国家への帰属は多元的なコミュニティーに属する人々の間の共通項として位置付けられ、カナダを構築する営みに参加することが人を「カナダ人」にする。」[[1]](#footnote-1)

・パキスタン…グローバリゼーションの重要性と若者のグローバルシティズンシップを育てていく必要性を認めている。しかし政策の主眼は国民性の育成に置かれていた。

（背景）国家主義的・イスラム教的視点

↓

つまり、グローバルシティズンシップ教育は…

**「globally oriented models of national education」 （By　Pike）**

↓

・グローバルシティズンシップ教育の課題・

グローバルシティズンシップ教育が地球というよりも国家の為になるようなものになってしまっている。

日本では“グローバルシティズンシップ（教育）”という言葉は広まっていない。

BUT　近年**グローバル人材の育成**が目指されている！！！

⇒日本でグローバルシティズンシップ教育を実施した時の場合について考えたい。

**論点**

**①日本におけるグローバルシティズンシップ教育の課題は何か？**

**②（その課題があるとしたら）どう乗り越えるか？**

1. 岸田由美他「シティズンシップ教育における多様性の排除と包摂 : ドイツ・オーストラリア・カナダ・アメリカの事例から」『日本教育学会大會研究発表要綱』(66)、 pp.96-97、2007年。 [↑](#footnote-ref-1)